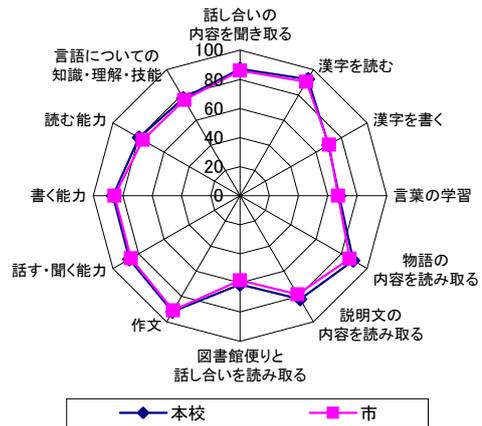


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	87.1	85.9
	漢字を読む	92.6	90.4
	漢字を書く	69.5	70.1
	言葉の学習	67.6	66.9
	物語の内容を読み取る	89.0	86.5
	説明文の内容を読み取る	81.9	78.4
	図書館便りと話し合いを読み取る	60.9	58.1
	作文	91.9	91.0
観点別	話す・聞く能力	87.1	85.9
	書く能力	86.6	85.4
	読む能力	79.6	76.6
	言語についての知識・理解・技能	77.1	76.0



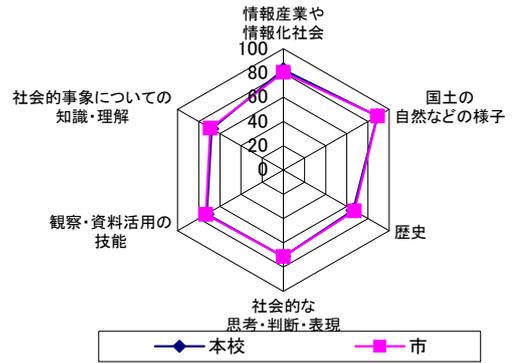
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率を1.2%上回っている。 ・自分の立場や意図をはっきりさせながら、自分の意見を話すことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や帰りの会での友達のスピーチは、要旨をしっかりつかむよう、話した内容についてキーワードを選んでメモを取るようになる。
漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」については、市の平均正答率を2.2%上回っているが、『漢字を書く』については、0.6%下回っている。 ・第5学年配当漢字の書きの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習や家庭学習において、繰り返し練習をさせるほか、単なる漢字練習のみならず、熟語調べをさせたり、短文作りをさせたりするなどの工夫をして定着を図るようにする。 ・既習の漢字は、日常生活の中で積極的に使うようにさせる。
言葉の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率を0.7%上回っている。 ・敬語(尊敬語・謙譲語)の使い方についての正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や会話科の授業で、俳句や百人一首にふれ、日本語の美しさに気づかせて興味を持たせるようにする。 ・家庭学習でのテーマに取り上げて反復練習をし、尊敬語・謙譲語の特別な言い回しを覚えるようにさせる。 ・日常生活の場面で常時指導し、正しい敬語が使えるようにさせる。
物語の内容を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率を2.5%上回っている。 ・どの問題も市の平均正答率を上回っており、特に、登場人物の心情の読み取り問題の正答率が92.9%と、市の正答率より2.2%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習や国語の学習の時間に、文学作品の文章に親しませる時間を作る。 ・図書室の司書の協力を得て、ブックトーク等で名作といわれる文学作品などを紹介してもらい、さらに興味関心を高める。
説明文の内容を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率を3.5%上回っている。 ・文と文のつながりを考えながら読み取る問題では、93.8%と市を3.1%上回る高い正答率である。 ・文章の内容を読み取り、他の例に当てはめて考える問題では、正答率は64.3%であるが、市より6.1%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習では、形式段落から意味段落へと文章の組み立てに注意して読ませる。その際、指示語や接続詞、順序を表す言葉に着目させ、段落相互の関係を捉えながら読み取ることの大切さを丁寧に指導する。
図書館便りと話し合いを読み取る	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率を2.8%上回っている。 ・資料を正しく読み取り、適切にまとめる問題は、市より2.3%高いが、43.3%と正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や帰りの会、日常生活の中で、常時話し手の意図を汲みとるように意識づける。 ・資料の中から鍵となる言葉や文を見つけるようにし、正しい内容を把握できるようにする。
作文	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率とほぼ同率の91.9%である。 ・二段落構成で文章を書くことに関しては、89.3%と市の平均より8.8%高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の書き方のパターンを習熟させ、日常の中で文章を書く機会を意図的に設ける。 ・作文が不得手な児童には、個別指導の徹底を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	82.7	80.5
	国土の自然などの様子	88.6	89.0
	歴史	66.0	67.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.2	71.3
	観察・資料活用 of 技能	72.2	73.1
	社会的な事象についての知識・理解	68.0	69.0



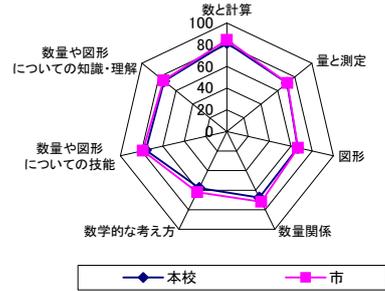
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	<p>・正答率は82%を超え、市平均も2.2%上回っている。情報が生活や仕事にどう生かされているか、また、情報の利用の仕方についてよく理解できていた。</p>	<p>・資料から必要な情報を読み取り、それをもとにして学習課題について考え、まとめる学習や、新聞等のメディアを活用して世界や世の中の動きに興味をもたせる学習を工夫し、思考力を伸ばしていきたい。</p>
国土の自然などの様子	<p>・正答率は88.6%で、市平均を2.4%と下回る。わたしたちの生活と森林のかかわりについて、棒グラフや円グラフなどの資料を読み取る問題の正答率は9割を超している。しかし、湖のよごれ方の移り変わりについて対策を考える問題では、地図資料の読み取りを間違える傾向が見られ、資料から読み取った情報を解釈する力が弱いことがわかる。</p>	<p>・映像や写真、様々な統計資料などを活用したり、資料と資料を結び付けてそこから社会的な事象の特色を読み取ったりできるように指導していきたい。また、資料から分かることを文章などで表現する活動を通し、資料を適切に読み取る力を付けたい。いろいろな資料の読み取りができるよう学習プリントなどを活用し、観察・資料活用の向上を図りたい。</p>
歴史	<p>・正答率は68.0%で、市平均とほぼ同じである。文章問題の読み違いによる誤答、資料と歴史上の人物や代表的な文化遺産の結びつき、室町文化の代表的な書院造の記述の正答率が低かった。歴史分野の正答率が他領域と比較し低かった。</p>	<p>・人物年表や人物事典作り、歴史的な事象と結び付けた人物理解を深める指導を工夫したい。また、史跡や文化財を当時の先人の業績と結びつけながら理解し、因果関係に着目した見方ができるように、年表や地図の利用を促すようにしていきたい。歴史は、学習対象の範囲が広く覚えるべき内容が増えたことで社会的な事象について理解したり、事象について考えたりすることが難しいと考えられる。学習プリントなどで復習を繰り返しながら、知識理解の定着を図りたい。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	81.8	84.3
	量と測定	70.9	71.3
	図形	66.4	66.7
	数量関係	67.7	72.1
観点別	数学的な考え方	57.9	62.0
	数量や図形についての技能	76.1	78.8
	数量や図形についての知識・理解	73.8	74.6



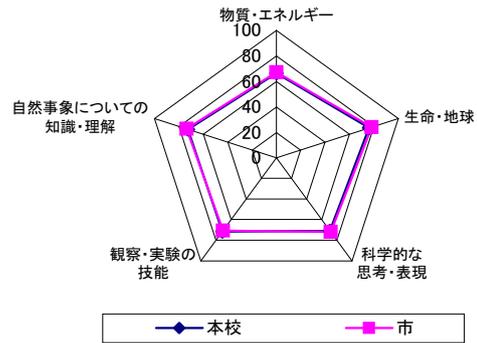
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は81.8%で、市平均を2.5%下回っている。 分数÷整数(約分あり)の正答率が86.8%で、市平均より6%下回った。 分数、小数の乗法と除法の混じった計算の正答率が79.8%で、市平均より5.1%下回った。 分数÷分数に関する文章題の正答率が37.7%で、市平均よりさらに4.1%下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の算数スキルの時間などを通して、引き続き計算力の向上に努める。 授業において、分数の理解を深め、立式の考え方を再確認するような時間を意図的につくっていきたい。また、分数や整数、小数にしても、立式の意味は変わらないので、簡単な整数に置き換えて考えるように指導したい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は70.9%で、市平均71.3%とほぼ変わらない。 速さと時間から道のりを求める問題では正答率44.7%で、市平均より2.4%上回ったが、あまりできていない。時速と分速の意味を理解できておらず、速さの公式に当てはめて計算している。 時速を分速に直す問題では、正答率47.4%で、市平均より4.5%下回った。時速を分速に直す計算は、学習済みだが、まだ、知識として定着していない。 三角柱の体積を求める問題の正答率は61.4%で市平均よりも3.5%下回っている。三角柱の体積の公式をきちんと覚えていないことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 速さや面積、体積を求める公式を完全に覚えていない児童がいるので、授業や算数スキルの時間を利用して復習にあたりたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は66.4%で、市平均66.7%とほぼ同じである。 半径から円周の長さを求める問題の正答率は、34.2%と低く、市平均よりさらに9.7%下回っている。面積を求めてしまった児童が多い。 六角柱の対称の軸を求める問題の正答率は52.6%と低く、さらに市平均より1.8%下回っている。対称の軸を対角線だけで考えてしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 円の問題では、円周の長さを求める公式と円の面積を求める公式を再度確認し、復習する。 線対称の学習では、対称の軸について再度復習する。対称の軸は、折り曲げた時に対角線だけでなく辺の間でも重なることがあるので、気をつけさせたい。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は67.7%で、市平均より4.4%下回っている。 比例するxとyの関係を式に表す問題の正答率は、55.7%で、市平均とほぼ同じで低い。また、反比例の関係を用いて量を求める問題の正答率は、58.8%で、市平均よりさらに10.8%下回っている。 与えられた表のデータから、割合を求める問題の正答率は37.7%で、市平均より14.5%大きく下回っている。割合を求める式「比べられる量÷もとにする量＝割合」を活用できない。 百分率の比べられる量を求める問題の正答率は、41.2%で市平均より4.3%下回っている。比べられる量を求める式「もとにする量×割合＝比べられる量」を活用できない。また、何がもとにする量で、何が比べられる量だかがわからないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数スキルの時間や授業の時間を活用し、比例、反比例について再度、復習する。このとき、ともなってしまう二つの数量について対応や変化の特徴を明らかにすることや、対応や変化の特徴をとらえるために、数量の間の関係を表やグラフに表したり式にしたりすることを指導する。 百分率の問題では、生活場面に関する問題を与え、児童に作問させることによって生活の中で割合を使えるようにしたい。また、もとにする量と比べられる量をテープ図にかき、比べて話し合う活動を繰り返すことで倍概念の量的イメージをつけられるよう指導する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	66.3	67.2
	生命・地球	75.9	77.9
観点別	科学的な思考・表現	70.8	72.0
	観察・実験の技能	71.7	70.7
	自然事象についての知識・理解	72.4	73.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市平均と比べてほぼ同じ%である。 「ふりこのきまり」の1往復する時間はふりこの長さで決まる問題正答率では、市平均・本校平均ともに約48%と低い。 「もののとけ方」のホウ酸の溶解度の問題正答率では、市平均が30.5%と低い、本校はさらに10%低い。 「ものの燃え方と空気」の空気が入れ替わらないところではものが燃えない理由を説明する問題では、市平均が57.5%、本校が51.3%と低い。 「水よう液の性質とはたらき」のどの問題においても、市平均・本校平均ともに約50%の正答率となっていて低い。 	<ul style="list-style-type: none"> この領域については、思考・判断の問題の誤答が多いことがわかった。よって、授業においては、実験からわかった結果を考察する時間を十分に確保し、児童自らが結論を導き出すことが重要であるとする。 単元の終わりには、まとめとふりかえりの時間をとり、再度、実験で行ったことを知識として獲得させていきたい。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市平均と比べて2%低くなっている。 「人のたんじょう」の問題では、「へそのお」と解答できた児童が市平均より14.1%低かった。 「動物のからだのはたらき」の血液や肝臓に関する問題では、約50%の正答率と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> この領域においては、資料などを用いた調べ学習が中心となるので、インターネットや映像などを活用して視覚的に学習するようにしていきたい。